

# 地域文化を継承する木工所と複合施設的设计

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1250148 堀之内 太視

指導教員 重山 陽一郎

## 1. 背景

### (1) 動機

パルテノン神殿やフランスのポン・デュ・ガールのような世界文化遺産や時代を象徴する建物は、当時の時代や地域性を現代に反映し、建築物を媒介として様々な情報が得られる。それは、現代においては文化的価値が集約された集合体であり、建築の背景にある多くの魅力を啄むことが出来る。速度を落としながらも、着実に進む機能性や防災性を重視した日本の都市開発によって、地域文化への配慮の欠けた街の更新が懸念される中で、地域性が組み込まれた集合体的な建築を設計することで、地域の文化的な価値を記憶として後世に継承していくことは出来ないかと考えた。

## 2. 対象敷地

### (1) 歴史

敷地は、東京都墨田区京島地区内の京島三丁目を対象としている。この地域は、1945年に第二次世界大戦での空襲を奇跡的に免れ、戦前の風情ある木造長屋や看板建築が現存し、路地を介した豊かな暮らしが魅力の木造住宅密集地域である。



図1 京島の風景

### (2) 現状

現在の京島は外部からの移住人口が増え続け、その半数以上はクリエイターやデザイナーである。風情ある暮らしに興味を持つクリエイター達によって京島はモノづくりの街として変容し始めている。しかし、老朽化の著しい木造住宅が大半を占めているため、倒壊

や延焼等の防災上の課題により、景観に配慮されない都市開発が進み、地域文化が消失し続けている点がこの地域の問題として挙げられる。

## 3. 京島の集合体について

京島の集合体とは、平面的に広がる建物群に寄生する小さな要素(後述)や路地に溢れ出す生活のオブジェクト等の、部分的に各地で点在する地域文化を集約させた、シンボル性を持つ建物である。

## 4. 目的

そこで、現代の都市開発によって、地域文化や暮らしの豊かさが消失し続けている京島を、集合体から通じたアプローチによって地域文化を後世に継承することを目的とする。

・京島の歴史が刻まれた木材を利用する木工所やアトリエ等のモノづくりの場を設置することで、敷地内に地域住民を交えたワークショップや作品展示イベントを展開し、人々の活動を通して集約された地域資源が後世に継承される。

## 5. 実地調査

現地調査で撮影した路地空間と街並みの写真を通してスケッチ的に空間分析を行い、計42枚の写真を図鑑化してまとめた。下記の3項目に焦点を当てて、京島の街の調査を行った。



図2 調査例

①路地に溢れ出す生活のオブジェクト

②地域内に密集する木造長屋や看板建築に寄生している小さな要素

③1.2が現れている建築のギャップと路地の空間形態

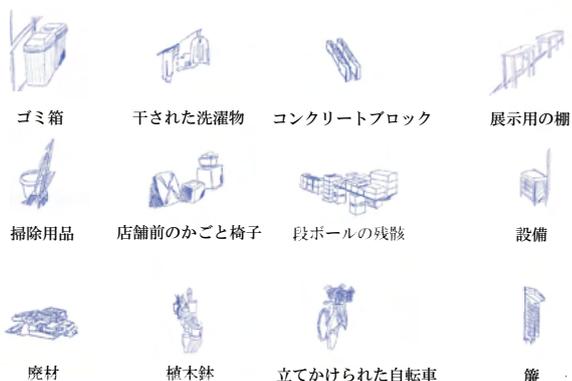


図3 ① 住戸から溢れ出した生活のオブジェクト

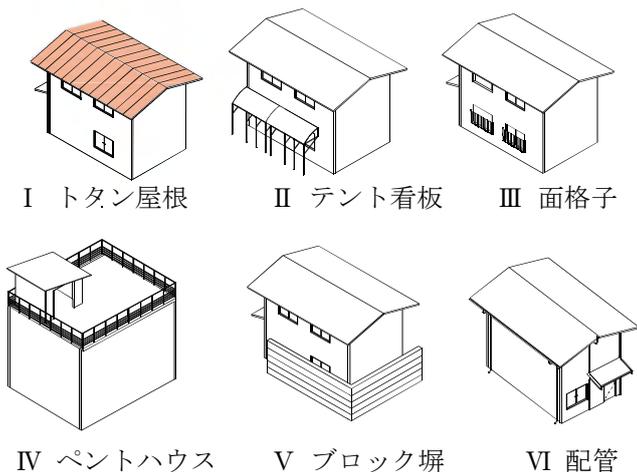


図4 ② 住宅に寄生する小さな建築

- I 昭和初期の頑丈な建材として普及し、現代も残り続けている。
- II 京島内の商店街に建ち並ぶテント看板を持った建物から影響を受けて、地域全体に集客するための建具として点在する。
- III 住戸の囲いが無かったため、代わりに防災対策の一つとして窓に格子がはめられている。
- IV 災害時の避難所として機能し、備蓄品等が置かれる。
- V 密集する木造住宅において耐火目的でブロック塀が普及したが、セルフビルドによって凸凹した表層を持つ老朽化した塀が点在している。
- VI 長屋の構造上、本来暗渠化している配管が外部に顕れている。

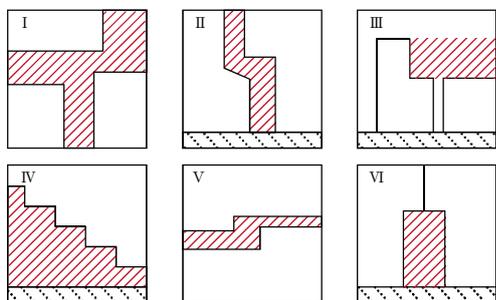


図5 ③ 溢れ出しが行われる建築のギャップの例と

説明

- I 整備されていない土地区画が見通しの悪い路地を形成する。
- II 隣り合う建物が拮抗し、雁行したギャップを形成する。
- III バルコニーが隣住戸の屋上高さとも一致し、共用空間のような

ギャップが生まれている。

IV 屋外階段の下に生活のオブジェクトが現れる。

V 奥行きと共に狭まる拮抗した路地が形成されている。

VI 向かい合う住戸は二階ベランダが突出し、天井が低い路地が形成されている。

## 6. 設計方針

### (1) 空間形態

前項の実地調査より得られた③の要素 (図5) を利用して路地空間を計画する。隣り合う住戸が拮抗したり、③で得られた情報から、これらを生み出す建物のヴォリューム操作を行うことで①の要素 (図3) を許容する高密度な路地空間を設計する。

### (2) 機能プログラム

#### ①木工所

木造住宅から発生した廃材や、路地空間に溢れる生活のオブジェクトを収集し、加工する場としての木工所を設計する。

#### ②集合住宅

木工所を営む職人と、木工所と協同的に作業を行うクリエイターが住むアトリエ空間を兼ねた集合住宅を設計する。

#### ③図書館

来訪者が自由に介入し、閲覧や徘徊が可能な公共図書館 (劇場・銭湯・商業施設) を設計する。

### (3) 建具等の設計

②の要素 (図4) を利用して、廃材化したものを今後も使い回される装置として機能する建具等の設計を行う。

### (4) 全体の空間構成

各機能を持った木工所・集合住宅・図書館の空間が路地空間を介して動的に接続する。また、立体的な空間構成によって、防災性を兼ね備えた街のシンボルとしても機能する。

## 7. 計画敷地

計画敷地は東京都墨田区京島地区にある、京島三丁目内の赤く色づけされた範囲を対象とする。空地の一部とその周辺に立つ老朽化が目立つ住宅を改修する手法で敷地を確保する。また、今敷地は京島唯一の商店



図7 S=1:300 断面図

街に面しているため、人通りが多い位置にあり、来訪者の導入を期待している。(図6)

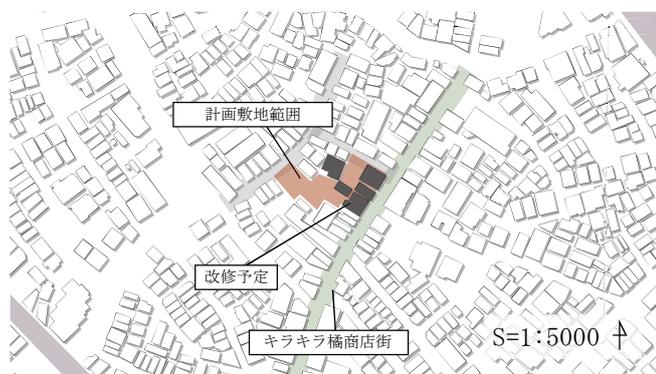


図6 計画敷地図

## 8. 設計

### (1) 建物の配置

敷地に面する道路の軸に垂直に交差する3本の軸線を用いて、設計建物の配置を決定する。京島地域内に広がる路地が敷地内の空間構成と連続的に繋がることで、緩やかに周囲と繋がり街並みに溶け込む。(図8)



図8 建物の配置図

### (2) 機能のゾーニング

敷地の中心に木工所を配置し、その周囲に公共の図書館と木工所を運営する職人の住む住宅、その周囲の、路地に面した位置に木工所を利用するアーティストや

クリエイターが住む集合住宅を設置する。地域住民がクリエイターの創作活動や展示品を覗き、公共施設を利用してモノづくりの生業を体験することで、動線を内部に引き込むグラデーショナルなシーケンスを想定している。(図7) また、クリエイター達の創作活動や公共機能が垣間見えることで来訪者が誘導され、奥に入り込んでいく動線を計画している。(図9)



図9 路地から見た光景

### (3) プログラム

#### ①路地空間

立体的に構成された路地空間は、敷地内に住む住人たちの私生活の領域から溢れ出した要素が路地的な公共空間を形成し、公私が連関した豊かな京島の路地文化が空間に反映される。



図10 路地空間

## ②木工所

5～7人程度で運用される町工場程度のスケールで設計する。地上階に大きな廃材を加工できる精密機器等が置かれており、手作業の組み立てや木材以外の廃材の加工等は2階で行われ、3階には施設運営者のオフィスが設けられている。また、京島各地で発生した廃材は木工所内で蓄積され、定期的な廃材ワークショップが行われることで来訪者を巻き込んだ、地域資源を後世に継承するモノづくりの生業が展開される。



図 11 木工所

## ③集合住宅

クリエイターたちが住む集合住宅はアトリエ兼住居であり、画家や彫刻家・建築家等が木工所で制作された作品を利用して創作活動を行う。また、アトリエは公共空間とカーテンで仕切られており、個別の展示会やワークショップを行う際はアトリエを開放して来訪者との交流が行われる。また、木工所に近接する職人の住む住宅では、オーナーが住戸内で飲食店を営んだり、地域の歴史資料館やギャラリー室の管理を行う。



図 12 集合住宅

## ④図書館

地域住民や来訪者が利用する周遊型の形態を持った図書館を設計する。地域住民から集めた古本や地域の資料本から成り立ち、木工所周辺に配架を点在させることで路地的な動線の中で来訪者は発見的に本を読

む。公共空間を介して、敷地内の住人による多様な生活の痕跡を身近に感じながら、木工所のモノづくりの風景と、クリエイターたちが活動するアトリエが垣間見えるようなシークエンス計画となっている。



図 13 図書館

## ⑤建具

②で得た図5の要素は、機能を変えて新たな装置に変換される。街並みを彩る小さな建築は、異なる形で地域住民に寄り添った文化的価値を持ったものとなる。例として、下図はブロック塀を並立させて木板を載せることで小さな劇場空間を生み出している。定期的に関われるアートイベントやワークショップ時に大きく機能し、来訪者に居場所を与える。



図 14 建具等の装置の例

## 9 まとめ

- ・地域内に点在する魅力が紡がれ、今設計に落とし込まれることで集合体として、地域文化を後世に継承される空間設計が生まれたと考える。
- ・京島三丁目内の4箇所に点在するモノづくりの機能を持った複合施設は、各施設間で廃材の引き渡しや共同作業が行われる。廃材の流通が地域内を循環することで、地域の空間的資源が後世に継承されていくことを期待する。